

### 3. 渡来人と一須賀古墳群

古墳時代の後半には、中国や朝鮮半島からたくさんの方が日本にやってきました。中国や朝鮮半島から海を渡って来た人々のことを渡来人（とらいじん）と呼ぶのよ。渡来人は馬を育てる方法や馬に乗る技術、そのほか、須恵器（すえき）と呼ばれる硬い土器を焼く方法などのさまざまな新しい技術や文化を日本にもたらしました。

近つ飛鳥博物館のまわりには、10～20m ほどの小さな古墳が 260 基もあり、一須賀古墳群（いちすかこふんぐん）と呼ばれています。この古墳群には渡来人の古墳で見つかることが多い、銀のかんざしやミニチュアにした煮炊き用の土器が多く見つかっています。また、金色に輝く履（くつ）や朝鮮半島と関わりのある貴重な品々が見つかっているわ。当時の進んだ文化・技術を持つ渡来人は、日本の国づくりに重要な役割を果たしたのでしょね。